

上高場

神社	大神宮
寺院	妙蓮寺
遺跡	犬竹(いんたけ)遺跡
その他	上高場の大藤
伝承	百合若大臣の鷹と高上のみどり松

★上高場の大藤は、明治12年に川原久次郎さんの家にあったものを移植して、その後、氏子(うじこ)の人が長い間それこそ手塩にかけて愛育されたものです。

毎年4月から5月にかけて、房の長さが1mあまりの見事な花が咲きそろい、見る人を楽しませています。

→(つづき)

みどり丸は東に向かって飛び続けましたが、とあるところの1本の松の木の上にとどまって羽を休めました。

鷹が運んだ手紙を見た家臣たちによって、大臣は無事に帰国すると、別府兄弟を討ち滅ぼしてしまいました。

※鷹が松の木の上に留まったので、タカウエというようになり、後にはタコエとなりました。また、高場という地名は、鷹が居た場所から高場というようになりました。高上は昔は高場分の内の地名でした。

高上

神社	田神社
	氏神様
その他 (戦跡等)	掩体壕 (えんたいごう)
伝承	高上のみどり松

★百合若大臣の鷹と高上のみどり松

昔むかし豊後(ぶんご)の国府(こくふ=現在の大分市)に、百合若大臣という人がいました。そのころ異国の賊(ぞく)が九州にせめてきたので、百合若大臣は家来を連れて那の津(なのつ=現在の博多湾)でこの賊と戦いました。敵を破った百合若大臣は、沖合にある小呂島(おろのしま)で休んでおりましたところ、家来の別府太郎、次郎の兄弟が船をうばった上、大臣を島に置き去りにして、国府に帰ってしまいました。そして兄弟は、大臣は戦いで亡くなったと言って、豊後の国を横取りしてしまいました。百合若大臣は自分が無事であることを、なんとか知らせようと思い、大事にかわいがっていたみどり丸という鷹の足に別府兄弟が裏切ったことを詳しく書いた手紙を、結(い)わえて放ちました。

(つづく)→

★地名の由来や伝承等ご存じの方は、下記までご連絡ください。

お問合せ:筑前町社会福祉協議会
(筑前町篠隈373コスモスプラザ福祉館)
TEL:0946-42-4555(担当 時津、石丸)
Eメール:chikuzenshakyo@tea.ocn.ne.jp

歴史を感じて

三輪⑩上高場・大久保・高上
マップ

この資料は、「筑前町の歴史」、「夜須の民話と伝説」、インターネット等を引用し作成しています。

ぴら〜り



散歩



これからの時代、健康づくりが大切です。歴史を感じながら散歩を楽しみましょう。コロナに負けるな!

大久保

神社	田神社
----	-----



上高場マップ

犬竹遺跡



大神宮



上高場の大藤



上高場区公民館

高上マップ

妙蓮寺



氏神様



大久保マップ

大久保区公民館

みどり松

田神社

高上区公民館

高上の北はしに地元では「みどり松」と呼ばれていた立派な松がありました。この松には、地元に昔「平安時代初期に豊後国に菅原大直という人がいました。ある時、菅原源に異国より賊が攻めてきたので、百合若大臣へ天皇の命があり、賊を退けました。戦いに疲れ、菅原源で休んでいるあいだに、家来の時尉、源直と、その弟、源直、百合若大臣を裏切つて、島に置き去りにして置いた。百合若大臣は、この島でしばらく暮らしていました。菅原大直は、この島で暮らした菅原大直を捜すために大直がわがわがっていた「時尉」という大直を見つけた。時尉は菅原大直に救い出されました。この時尉は、菅原大直に「みどり松」と呼び、この辺りを「中休んだ松」と呼んで、「タコバ」や「タコエ」と言ふようになった。現在の地名をとっています。

高上のみどり松

掩体壕



田神社



★掩体壕は、戦争中の大刀洗航空隊にある飛行機を避難させて、空襲爆撃から護ろうとして造られたものです。飛行機の防空壕といったようなものです。